

の過程分析の観点を明確にした評価をする。

③ 話し合いの活動の話題の指導を徹底する。

(2) 教科指導では

① 計画的に話し合いの仕方の訓練をする。

② 教科における話し合いの観点を指導する。

③ 国語科においては、音声言語の表現力を高める指導を充実する。

(3) 教科外活動では

① 児童の発言、発表の場と機会が多くなる工夫をする。

② 全校活動の充実を図る。

以上のことを配慮した指導をすれば、主体的で深まりのある話し合いになるであろう。

4. 研究の概要

第1年次は、学級会活動の授業研究を中心に、基本的な話し合いの仕方を身につけさせる訓練の徹底を図った。

第2年次は、それを各教科・各領域の学習へ転移させることをねらいとして、授業研究や全校活動の実践を進めてきた。

(1) 学級会活動

① 話し合いの活動指導内容系統表

項目 学年	議 題	話 し 合 い	司 会	記 録	運 営
1	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの困ったことや、したいことがいえる。 教師が議題を出す どんなことが議題になるか考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことをはっきりとみんなにわかるように話すことができる。 人の意見を最後まで聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と共に開会や閉会のことが言える。 意見のある人に対して、すぐ指名できる。 簡単な問題の司会ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の記録した板書の記録を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が中心となり、議題を決定し、話し合いの進め方を知る。
2	<ul style="list-style-type: none"> どんなことが議題になるかわかる。 全員が相談して議題を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことを整理して、はっきり話すことができる。 グループでの話し合いができる。 話されていることを正しく聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の助けをかりて、会を進めることができる。 教師の助言を得て、かたよらない指名ができる。 発言のまとめ方をおぼえる。 なるべく多くの児童に継続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と共に決まったことをかたんに板書できる。 学級会ノートに記録ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題について何を話し合うかを、教師と共に話し合って計画することができる。 提出された議題の中からよい議題を教師と共に話し合って選ぶことができる。 計画委員会の開き方を知る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 全員が議題を出すことができる。 議題の良否を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道によって、わかりやすく話すことができる。 グループでの話し合いができる。 人の意見と自分の考えを、比べながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の助けを得ながら、司会ができる。 議題からそれないように議事を進めることができる。 自分たちで司会を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 決めようとする、決めようとしたことをかたんに板書できる。 わかりやすく、ていねいに記録ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な立場から議題を選ぶことができる。 教師の助言により計画委員会を開くことができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> グループで考え、議題を出すことができる。 議題の決め方の工夫ができる。 係から議題が出せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言いたいことをよくわかるように話すことができる。 話題からそれないで話し合いを進めることができる。 資料をもとにして話すことができる。 話の要点や中心点を正確に聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> メモをとっての議事の進行ができる。 問題点をしぼって指名ができる。 時間内に会をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点をおさえて板書できる。 問題をまとめて板書できる。 次の会に役立つ記録ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員会で議題案の整理や話し合いの順序を決めることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 学級・学校の立場から議題を出すことができる。 全体的な立場から考えて出すことができる。 集会などについて計画的に議題を決めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点をまとめ、主旨のはっきりした話ができる。 メモをもとに話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少数意見の取り扱いに気をつけることができる。 議題の進行がよくなるよう求めることができる。 話の内容を深く能率的に議事を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議事の進行に従ってわかりやすく整理した板書ができる。 会の進行がよくわかるように決まったことを学級会ノートに記録できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題やその結果などを提示し、能率的な話し合いの活動を計画することができる。
6	<ul style="list-style-type: none"> 学級・学校・社会的立場から、みんなの問題として討議できるものを出すことができる。 学級内の問題を共通の話題としてまとめて出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明らかにした話をするができる。 全体の立場に立って責任ある発言ができる。 自分の立場をよく考えて、聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 採決の時期を適切に判断することができる。 問題をしぼり、細り下げた進行ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 要領よく手早く整理と板書ができる。 学級会ノートをきちんと整理して、自主的に記録を活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題の選定や、話し合いの計画が役割分担や組織を通して能率的に行うことができる。

② 授業研究

<めあて>

ア、少人数学級における、話し合いの活動の進め方を改善する。

イ、ひとりひとりが、主体的に参加する話し合い活動の手だてを工夫する。

ウ、話し合いを深める、教師の助言・指導を工夫する。

<手 順>

ア、授業者の事前研究（議題の選定、授業テーマ等）

イ、第1次授業案検討（授業テーマを中心に）

ウ、第2次授業案検討（活動過程を中心に）

エ、実践授業

オ、事後研究会

<授業観察の観点>

ア、授業テーマの達成度 (主・深)

イ、教師の助言の回数及び時間 (主)

ウ、教師の助言の機会と内容及び方法 (深)

エ、司会者の発言回数の比率及び時間 (主)

オ、司会者の発言内容（説明・確認・概括）(深)

カ、発言しない者の比率 (主)

キ、平均発言回数と発言の偏り (主)

ク、発言内容の調和（角度・深度・進度）(深)

ケ、発言の組織化 (深)

※(主)－主体的な参加 (深)－話し合いの深化